

学校になじめない  
お子さまの  
「自信を育てたい」  
お母さまへ



褒め方のポイント-4

## その11 ときには意外なことを褒める

先ほど、

「その子の思い入れの大きいことを褒める」と  
ご説明しました。

この話と矛盾するように、  
思われるかもしれません。しかし、


「相手にとって、意外なことを褒める」  
というの、相手の心に残ります。

ここで、ベテラン小学校教諭のお話を  
ご紹介しましょう。

=====

私は、正式に教師に採用される前、  
3カ月間、ある小学校で、講師として  
国語を教えていたことがあります。

その学校には、  
とても指導力があることで  
有名なM先生がいました。



私は当時も、今も  
最大級の尊敬の念を持っております。

その先生が  
私の授業を見てくれたことがあります。


そして、授業が終わったとき  
言ってくれました。

「あんた、いい声してるね」

たぶん注意したいことは  
山ほどあったと思いますが、

M先生は、ただ、  
私の声を褒めてくださいました。

ほかには、注意事項など、  
何も言いませんでした。



それから、30年も経過したのに、  
今でも、鮮明に覚えています。


M先生の一言は、とても意外であり、  
また、私にとって  
非常に嬉しいものでした。

自分の声を褒められたことは、それまで、  
一度もありませんでした。

でも、M先生から、そう言われると  
何となく、そんな気分になってきました。  
(このあたりが、私のおめでたいところです。)

それまでは、日々の授業が苦痛で、  
つらくて、どうしようもなかったのに、  
M先生の一言を頂いてからは、  
楽しみになってきました。

そのときから、私は自分の声に  
密かな自信を持ち始めました。



自分なりに理由を見つけようと、  
いろいろ考えました。

学生時代、アルバイトで餃子売りをやって  
声を出していたからかな？ とか……、

アパートで、萩原朔太郎や  
室生犀星や、宮沢賢治などを  
朗読して楽しんでいたからかな？ とか……。

そして、本を買ってきて、  
発声や朗読を、自分なりに練習しました。

ある劇団が主催する、  
教師向けの発声法や朗読法の講習会にも  
参加するようになりました。

すべてあのときの  
M先生の一言からです。

私にとって「魔法の一言」です。

=====


ここでご紹介しましたように、  
思いがけない一言が、  
「人生の方向を決める」こともあるのです。

時には、  
お子さまが気づきもしないようなことを  
褒めるのも、非常に効果的です。

「声がいいね」などということは、  
実は、誰に言っても  
当てはまるのではないのでしょうか？

誰でも、それなりに  
「いい声」なのですからね。





褒め方には、さまざまなフレーズがあります。

いくつか、ご紹介しますので、  
ご自分のキャラクターに合わせて、  
ご活用ください。

「〇〇は、笑顔が本当にすてきだね。  
見ているとこっちも楽しくなってくるよ。  
人を幸せにする笑顔だね」

「いつも元気いっぱい  
エネルギーがあるね。  
〇〇を見ていると、  
こっちも元気になってくるよ。  
ありがとう」

「プラモデルの部品がずれないで  
ぴったりつけてあるね。  
なんて器用なんだろう」



「光江というのはよい名前だね。  
きっと、光り輝いて、  
みんなを明るくする人になるよ。」

「耳の形がいいね。福耳だよ。  
福耳の人は、  
よいことがいっぱい起こるんだって」


「〇〇は早起きでよいね。  
早起きは三文の得だよ。  
人生で得なことがいっぱいあるよ」

「〇〇は運がいい子だね。  
キャンプに行けば晴れちゃうし、  
アイスを買えば当たっちゃうんだから」

などなど……。  
たくさん考えられます。







ぜひ、お子さまが思ってもいない  
「意外なこと」を褒めてください。


そこから、思いがけない  
進展があるかもしれません。

気負って、頑張るって？  
難しい本を読む必要もありません。

その子のよさを見つけ出そうとする  
気持ちがあれば十分です。

その気になれば、  
テレビドラマからでも、  
映画のシーンからでも、  
褒めるための材料は  
いくらでも見つかります。

最後に、「褒めるテクニック11カ条」を  
もう一度、復習しておきましょうか。



これらを、時々思い出して、  
少しずつ使ってゆけば、お子さまに対する  
褒め方は、グングン上達することでしょう。



どんなことでも、  
「うまい・下手」があるように、  
褒め方にも  
「うまい・下手」があるのです。

お母さんの「責任」として・・・と、  
堅苦しく考えないで、

お母さんの「楽しみ」として、  
褒め方を工夫して頂ければ、私としては、  
ありがたく、嬉しいことです。

紙に書き出しておいて、  
どこかに張っておくとよいかもしれません。

(・・・でも、お子さまには、  
「ネタばれ」しない方がいいですね。笑)

- 
1. 具体的に褒める
  2. 抽象的に褒める
  3. すぐ褒める
  4. 「これは」ということを、いつまでもしみじみ褒める
  5. 理由をつけて褒める
  6. 理由なしで褒める
  7. 褒め言葉のバリエーションを増やす
  8. 感謝の言葉も、褒め言葉
  9. 第三者も褒めていたと伝える
  10. その子の思い出の大きいことを褒める
  11. ときには意外なことを褒める
- 

お子さまの学習、習慣づくり、将来の展望など、  
どんな小さなことでも、気軽にお電話下さい。

「スタディ・コーチング・ラボラトリー」代表の  
福田秀一が、直接、お話をうかがいます。

**ご連絡は、こちらです。**

e-mail : [a\\_totalperson@yahoo.co.jp](mailto:a_totalperson@yahoo.co.jp)  
(PCにて、24時間受付)

